The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中井蕉園『杞憂漫言』翻刻
Author(s)	佐野, 大介
Citation	懐徳堂センター報. 2009, 2009, p. 49-63
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24422
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『懐徳堂センター報』二〇〇九　（大阪大学大学院文学研究科・文学部懐徳堂センター　二〇〇九年二月二八日発行）

中井蕉園『杞憂漫言』翻刻

佐野大介

本稿は、中井蕉園『杞憂漫言』の翻刻である。『杞憂漫言』については、湯城吉信氏「懐徳堂文庫資料解題（7）」（湯浅邦弘編『懐徳堂文庫の研究　共同報告書』、大阪大学大学院文学研究科、平成一五年）に優れた内容解説がなされているため、ここに引用し紹介に代える。また、同解題は書誌情報についても詳しい。

中井蕉園の北方国防論。和文（漢字片仮名混じり）。手稿本。最初に「無名氏」の書名がある。朱筆で推敲の跡あり。不分巻1冊。全32葉。題は、取り越し苦労のいい加減な言葉という意味。

〇で全13章に分かれている。松前藩を引き払うべきだとの説（蕉園は「松前内徙論」と呼ぶ）を主張する。理由は、松前を有することは国防上危険だからである。

背後には、夷狄とは交わるべからずという基本認識がある。中国の史書を引用し中国史を述べるのも、要は中国歴代王朝滅亡の原因は夷狄にあることを言うためである。夷狄には文明の礼が通じない。彼らは貪婪で国に必ず害をもたらす。よって交わらないのが一番だと言う。華夷の別は天意だと蕉園は言い切る。

松前はもともと夷狄の地であり、ロシア（赤狄・あかひと）に侵されやすい。このような危険な土地を有するよりも捨てた方がいいと言うのである。北海道開拓論に対しては、費用に見合う利益がないとして反対し、開発するより不毛の地のまま緩衝地帯として残すべきだと言う。また、ロシアとの貿易も日本に利益がないと言う。それは、ロシアが望むのは米で、日本が輸入することになるのはおそらく贅沢品の類だからである。米は余っていても蓄えろと言う。

北海道開拓の代わりに蕉園が主張するのは、内地開発論である。これは、民衆に任せるのではなく、国家事業として国費をかけるべきだと言う。その背後には日本は豊かで未開の土地が多く、人民は少ないという認識がある。

なお、蝦夷を放棄すべきだという考えは、中井竹山、中井履軒も表明している（竹山『草茅危言』巻4、履軒「利政雑議」「擬喩」『履軒髦言』所収、「蝦夷辨」新田文庫蔵『履軒先生遺稿雑集』所収）。比較すれば、蕉園の蝦夷についての考えは、履軒「蝦夷辨」の考証に基づいていることがわかる。また、ロシアとの貿易に反対して米は余っていても蓄えろというのは、父竹山『社倉私議』に見える考えである。

底本は十三章に分けられているが、章名は付されていない。おおよその内容は以下のようなものである。

一、日本の素晴らしさ
二、中国の夷狄に苦しみたる歴史
三、本来の蝦夷
四、今言う所の蝦夷
五、ロシアの脅威
六、熟夷の地不可闕の事
七、赤狄の害
八、交易に米穀を用うべからざる事
九、密輸の禁止
十、基督教の害
十一、侵地を廃棄し内地を開墾すべき事
十二、国内開墾のすすめ
十三、この論の論点

凡例

・底本には中井蕉園自筆本（大阪大学附属図書館蔵）を用いた。
・使用されている俗字・或字は、できるだけ底本に合うよう留意したが、フォントの都合上改めた箇所もある。
・「トモ」「ドモ」の合字は印刷の都合上仮名に改めた。
・漢文引用部は「　」で括り、訓点も翻刻した。
・一部に付された割り注は、（　）で括り示した。
・底本には句読点が記されていないが、通読の便のため句読点を施した。
・底本には、挿入の印として字間に朱で「△」を附加し、上部欄外に文字を記した箇所があるが、本文中に繰りいれた。
・墨による見せ消ち、朱による修正等は、修正に従った。
・一部の漢文引用部・人名には、簡単な注を付した。

杞憂漫言　　無名氏

〇アメガ下ニ列リ建ル國々、彼ニ優ル所アレハ此ニヨキ所アリ。得失長短ハ相タカヒナルモノゾカシ。ソノ中ニ我日本ホドマサレルヿノ多キ國ハアラシ。他ノ國々ハ大小廣狹サマ〳〵ニ異ナレドモ、多クハ相並ヒテ境ヲ接ス。ソレ故ニ隣國ドシノ争闘起リ易ク、ヤゝモスレバ弱之肉ハ強之食ニテ、一時ニ智力マサリタルモノ兼併呑噬ノ慾ヲ恣ニス。華夏ノ盛大ナルヲ以テダニ此患ハ免レズ。又海中ニ離レタル國ノコノ患ナキハ、多クハ貧シク米穀布帛等一ニ他國ノ給ヲ仰キ、力弱ク救援ナク、近邊互市ノ大國時アリテ怒ルヿアレバ、忽チソノ魚肉トナル。我日本ハ四面ニ大海ノ險アリテ百穀金帛ノ豊饒イハン方ナク、義勇萬國ニ超越セリ。サレバコソ古ヨリ給ヲ他國ニ仰クヿナク、隣境ニ窘メラルゝヿナク、卓然孤立シテ万國ニ雄視スレ、是全ク天ノ區別分處シテ獨全カラシメ玉フ所ナリ。誠ニ有ガタキ天意ナラズヤ。シカハアレドモ、上古ノ草昧人民過醇過朴ナレバ、山海ノ産衣食器物ノ料、豊饒ナレドモ豊饒ヲ知ズ、採用餘リアリテ採用スルヿアタハズ。列聖コレヲ憂ヒ玉フノ切ナルヨリ、近キアタリニ先ツ開ケタル國ヲ求メ、新羅・高麗・百濟ニ神威ヲ加ヘ、好ヲ通シ貢ヲ徴シ、ソノ智ヲ假リテ我用トナシ、過醇過朴ノ人民巧思文物日々ニヒラケタリ。三韓我ニ叛ケハ、止ムヲ得ズシテコレヲ征シ、服従

スレバ即チヤム。タヽ我赤子ニ師タラシムルノミ。ソノ後、聘隋遣唐ノ使シキリニ起リ、艦船ノ来往ヒキツギシモ、皆我民ノ智竅ヲ通シ、我國ノ富有ヲ潤色スルノ謀ニテ、給ヲ他國ニ仰クノ類ニハ非ザリシ。ソノ後郡國ノ瓦解、王室ノ衰乱、サマ〳〵ト時勢カハリタル内ニハ、受封アリ黷武アリテ識者ノ窃ニ耻ル所ナレドモ、畢竟ハ論ズルニ足ザル。慶長ノ武成・元和ノ鞬櫜ニ至リ、蠻夷ウチツヽキ入貢アリテ互市ノ手廣ク行ハセラレシモ、年久シキ喪乱ニテ人民ノ昏蒙、再ヒ上古ニ復スレハ、然ザルヲ得玉ハヌナリ。智竅ヲ通シ富有ヲ潤色シ玉フノ神慮、一時ノ権宜ニ出テ、前聖ト其揆一ナリト申スベシ。太平稍久シキニ隨ヒ、群蛮ヲ次第ニ謝絶アラセラレ、草根木皮ノ疾病ニ要ナルモノナド、吾土ノ稀ニ事欠タル品ノセキタル舶・孱弱ノ華夏・謹直ノ紅毛一二ノミ長ク免許アリテ交易絶ヘザルモ、亦事ノ宜シキヲ得サセラレテ、我國ノ大益トイフベシ。藥物ノ内、必用ノモノニテ國産絶テナキカ、又ハアリテモ用ニタヽヌ分ハ彼ニ求メザルヿヲ得ザレドモ、コレトテモソノ来ラヌ昔ヲ思ヘハ、無クハ無キニテ事スムベシ。然レドモ、同シクハ有ガヨキナレバ彼ニ取ルノミ。コレ又給ヲ他國ニ仰クト云ニハ非ズカシ。コノ上ハタヾカクノ如キマヽニ卓然孤立シ、豊饒ヲモテ自カラ奉養シ、大險義勇ヲモテ自カラ護衛シ、天意ニ隨フヲ万世ノ長策トイフベキナリ

○西洋諸國ノ中ニハ、巧思奇絶ニテ技藝ニ委シキ國モアレドモ、南蛮北狄、多クハ暴獰剽悍ニテ慮少キ方ナリ。ソノ智巧ナル國ダニモ、循天率性ノ教ヘナク、仁義ノ道暗キユヘ、貪婪無厭ノ風ハ甚シ。況ヤ暴悍慮少キノ國ニ於テヲヤ。華夏ハ唯東南ノミ海ニ濵シ、西北ハ直ニ夷狄ニ境ヲ接ス。ソレユヘ古往今来コレニ窘シミ患フルヿ甚深シ。『晋書』ニ夷狄ノヿヲ論シテ、「遇有道則時導聲教、鍾無妄則争肆虔劉、趨扇風塵、蓋其常性也」ト云ヘリ。華夏ニ明君アリテ、四海安穏乗ズベキノ隙ナク、迚モカナハヌ勢ナレバ、ヤムヿヲ得ズ服従シテ居レドモ、闇君世ニタチ政治ミダレ、下ニ怨恨ノ民アリテ、一世穏カナラザルカ、或ハ思ヒモヨラヌ災変兇人アリテ騒動スルヿアレバ、忽チソノ機ニ乗シ邊地ヲ乱リ追々ニ入コミテ狼藉ヲナシ、人民ヲ殺傷シ、財貨ヲ掠メ、天下ノ大乱ヲアフギ立ルヨウニナル。ソノ生レツキ然リトナリ。夷狄ハカヽル常性ニ女子小児ノ情ヲ具ヘタリ。カクアラセマジト、一旦通路シタルモノヲ忌キラヒテ絶チ遠ザクレバ、怨ミ怒リテ事ナキニ禍ヲ生シ、馴レ養ヒテ、恩徳ヲ見セント近ズケ過レハ、不遜ニテ侮トリ輕ンジ、我ヲ弱シトシ、サマ〳〵ノ我マヽヲシ出シ、又禍ノ種トナル。天下ノ處シガタキ至極ナリ。秦ノ世ハアマリ夷狄ヲハラヒスギ、長城ノ大役ヲ起シ、ソノ謫戍ニ士民ミナ苦ミテ大乱ヲ生シ天下ヲ喪ヘリ。夷狄ニ亡サレタルニアラ子ドモ、夷狄ノヿニツキテノ處置誤リタルヨリ生シタル乱ナレバ、夷狄ソノ禍根タルヲ免カレズ。漢ハ富実又安ナルニ乗シ、ソノ威力ヲモテ地ヲヒラキ、永クオノカ國ニ臣妾タラシメント、連年兵ヲ用ヒ、幾億万ノ財穀ヲ費シ、数十百万ノ人民ヲ死亡セシメ、事ニ従ヒヌ。窮竟ハ地モヒラケ夷狄モ大ニ服シタルヨウナレドモ、彼常性ニテ一降一叛、隨テ撲ケセバ隨テ燃ヘ、人民財穀ノ費亡ニテ、中國耗弊シ、怨恨深クナルノミニテ、ソノ禍ハ少シモ減ゼズ。ゲニハ漢室衰乱ノ萌芽トモナリシナリ。晋ハ無道ニテ天下ヲ得、無策ニテ治メシヿユヘ、國初ヨリコノ禍甚多ク、ツイニハ十六胡トテ、種々ノ夷狄入コミテ大乱ヲ作シ、華夏半國ハ夷狄ノ巣窟トナル。唐ハ國初英主ノ餘烈ニテ、ソノ害少シハ穏カナレトモ、亦絶ヘズ回紇吐蕃等一征一和紛々タリ。末ハ五代トナリ、ソノ禍、晋ノ

十六胡ヨリモ又甚シ。五代カハル〳〵帝位ニノボリシ内、タヾ梁周ノ二代ノミ華人ト見ヘテ、餘ハミナ夷狄ノ種ナリ。ソレノミナラズ、五代ノ間、ソノ帝タル人ノ廢立、マタ他ノ夷狄ノ心次第ニテイカヨウニモナル勢トナル。宋モ年々ニ数万々ノ銭帛ヲソナヘテ夷狄ニ贈リ、胡澹庵ノ議セシ言ノ如ク、「堂々天朝相率、而拜犬豕」「朝廷宰執、盡為陪臣」ノ醜態ニガ〳〵シキ事ドモナリ、ソノタメニ府庫渇乏シ、賦歛ヲ厚シ、人民ヲ苦シムルヿトナル。ソレニダニカノ貪婪無厭ノ心ニテ益贈物ヲムサボリ、ソノ数ヲ増シメントス。コレヲイナメバ、忽チ兵ヲ動シ寇ヲナス。防キテハ敗績シ、和議又起リ、贈物マス〳〵多ク、人民マス〳〵苦ミ、怨怒骨ニ入ル。末ハ遼金代リ興リ、元ニ一統シ、数千年来堯舜文武禮文ノ國、始テ夷狄ノ國トナル。明ニ至リテ恢復シ、華夏シバラク蘇生ノ思ヒヲナセドモ、ソノ害ハ同シサマニテ、奄答ニ窘ムヿ数十年ニテ満州大ニ勃興シ、礼文ノ國再タヒ夷狄ニ汚サレテ、公卿士大夫ヨリ農商ニ至ルマデ、冠ヲ裂キ、冕ヲ毀リ、髪髪ヲ環剃シ、頂上ニ鼠ノ尾ニ似タル編ミタル髪ヲウチタレ、楚々タルノ衣裳ヲカナグリ捨テ、アヤシキ胡服ヲ着シ、アラヌサマニ風ヲカヘ、永クイカントモスベカラザル形トナリテ、痛哭流涕モ今サラ益ナキヿトナレリケル。コノ歴代夷狄ニ病サレシヿ、撫御ノ術ニ良否アリ、事勢モサマ〳〵ニ異ナレドモ、ソノ由テ来ル処ハ漢室ナリ。『唐書』夷狄傳ニ「禮讓以交君子、非所以接禽獸夷狄也。纖麗外散、則戎羯之心生、戎羯之心生、則侵盗之本也。聖人飲食聲樂不與之共、来朝坐之於門外、舌人體委以食之、不使知馨香嘉味也。漢氏習玩驕虜、使其悅燕趙之色、甘大官之珍、服以文綺羅紈、供之則増求、絶之則招怨、是飽豺狼以良肉、而縱其獵噬也。華人歩卒利險阻、虜人騎兵利平地、堅守無与追奔競逐、来則杜險使得進、去則閉險使不得還、衝以長戟、臨以彊弩、非求勝、譬諸蟲豸虺蜴、何礼讓之接哉」ト云ヘリ。總シテ夷狄ノ輩ハ、礼義ヲ盡シマジハルベキモノニ非ズ。華夏ノ産物ウルハシキ品ドモソノ國ニトリ傳ヘ、願ヒ欲スル心出来レバ、乱入侵盗ノ基トナルヿナレバ、聖王ノトリアツカヒハ格別ノヿニテ、ソノ来朝シタル時ハ門ノ外ニ坐セシメ、通事ノモノニ命シ、牛羊ノ類ナド、スガタノマヽニスヽメ馳走トシ、華夏ノ美味珍飾ヲ知シメズ、ソノ入寇スル時モ、共ニ追逐シテ勝利ヲ争フヿモナク、險ヲ守リテコレヲ防ギ、入ルヿヲ得セシメズ、打入リテ引去レバ、險ヲ閉フサギテタチモドルヿヲ得セシメズ、長キホコ強キイシユミモテウチ拂フノミ。スベテ毒虫ナドノアヒシラヒナリ。礼讓モ用ヒズ、油断モセズ。漢武コノトコロニ心ヅキナク、威力ニマカセテ西南北ノ夷ヲ征シ、夷酋ソノ子ヲ入朝セシメ、侍子ト称シテ都ニトヾメ置ル時、又ハ夷酋種人ノ新タニ来朝セル時ハ、漢ノ殷富廣大ヲ誇リ、此等ノ輩ヲ引ツレ方々迎幸アリテサマ〳〵ノ繁華美麗ヲ見セシメ、芳味珍羞ヲ食ハシメ、綺羅錦繡ノ衣服ナド数々ノ賜モノセラレタリ。此ハ夷人ノ殷富廣大ニ恐レ入リ、漢ヲ貴ヒ心服セントノ心ナレドモ、サハユカデ、夷人、醜鄙ノ目・穢醒ノ口・陋朴ノ耳ニテイマダ見ザル美麗盛大ノアリサマヲ見、イマダ食ハザル芳味ヲ喫シ、イマダ聞ザル妙聲ヲキヽ、ソノ貪婪ノ心マス〳〵長ジ、同シ人ト生レナガラ箇様ノ國ニ住ムハウラヤマシキ事ト、邪念日々ニ熾ンニシテ、漢ノ土ヲ尺寸ニテモ領シタク思フナリ。モロ〳〵ノ賜モノ取還リ人ニ示シ誇リツヽ、アリシ事ドモ委シク語ルニ、コレヲ見聞スルモノ、人々舌ヲ舉ケ涎ヲタレ、羨ミ慕フ心生スルヨリ、コレモ亦マス〳〵邊境ヲ侵掠残割セント欲スルナリ。水草アル所ヲ追フテ住居

トシ、草木ノ葉ケモノヽ皮ノミ身ニマトヒタルモノヽ、一朝人間ニコレラノ楽アルヿヲ知リタラバ、サモアルベキヿゾカシ。コレムマキ肉ヲ餌トシ、豺狼ヲ招キヨセアレサスルニ同ジトナリ。ソノ昔三代ノ至治ニダニ鬼方・獫狁・薫鬻ナド夷狄ノ害ハ免カレズ。此モ財穀ヲ貪ル故ナレドモ、誠ニ邊疆ニ徘徊シ、少シノ美ヲ見ルノミニテ、萬物ノ富贍万事ノ美麗カクアルベシトハ露シラズ、シラ子バ欲スル心モ薄ク大ナル禍害ハナサズ。且又聖王ノ撫御ヨク入貢モ入寇モ上文ニ述タル如クニアリテ、ナヲ劉貺ガ「荒服之外、声教所不逮、其叛不為之勞師、其降不為之釈備、厳守備、険走集、使其為寇不能也、為臣不得也。惠此中夏、以綏四方、周之道也」(五)ト議シタル如ク、叛クトテモ降ルトテモ、ソノ守備ハキビシクシ、寇ヲナシ慾ヲヲトゲシモ得ベカラズ、臣下トナリ睦シクナランモ得ヘカラズアラシメ、我土ヲ治メ惠ミテ彼モオノヅカラ静謐ニ治リユクヨウニサセラレシ故ニ、大乱大害ヲナスベキ根モナク術モナシ。漢武ヨリシテ、下ハ夷狄ノ心大ニ啓ケ、供之則増求、絶之則招怨、接スルニ礼アレバ愈驕リ、礼ナケレバ愈怒リ、数百千年華夏ノ大痼疾トナリ、末ハ宋明ノ大變ニ及ビタリ。此等ニツキテ思ヘバ、夷狄ハユメ〳〵親ムベカラズ。又大國ノ財穀美珍ヲ熟知セシムベカラズ。不毛醜陋ノ地ニ生レタルモノナレバ、イツマデモ不毛醜陋ノマヽニ生ヲ遂ケ、少シニテモ外ノ美ヲシラズ、貪婪ノ心増長セズ、自カラ安ンジテ居リタニスレバスムヿナリ。天意則然ルナリ。我日本古ヨリ時々少シノ夷寇アレドモ、ソレハ事カハリ華夏ノ如キ大痼疾ハ絶テナシ。世人ハタヾ我國ノ義勇トノミ思フベケレトモ、サノミニテハナシ。カノ天ノ區別分處、四面ニ大險アリテ、他國ノ通路カタキヲ以テナリ。サレバトテ、コレヲ恃ミ夷狄ヲ侮リ、狎レ親シミ大ニソノ心ヲ啓クヿアラバ、ムツカシキ事モ出来ルベシ

(一)『晋書』巻九七、四夷伝。

(二)「五代」より「また他の」まで欄外上部に記載。

(三)『宋史』巻三七四、胡銓伝。

(四)『唐書』巻二一五、突厥伝上。

(五)『唐書』巻二一五、突厥伝上。

○古昔、蝦夷征討ノ事甚多シ。日本武尊ヨリ以降、藤原保則(六)、小野春風(七)ニ至ルマテ、上下八百年ノ間、歴々トシテ正史ニ相望メリ。コノ蝦夷ト云ハ、今ノ世ニイフ蝦夷ニハアラズ。我國開闢ノ後、神聖西國ニ起リ、追々ニ諸國ヲ服従シ、次第ニ東ニウツリ、中幾ニ都ヲ定メ玉ヘハ、王化ノ行ハルヽヿ、西國中幾盛ンニ〴〵、東陬ハ久シク開ケザリシユヘ、東陬ニ限リ、言語風俗大ニ殊異ニ禽ノ如ク獣ノ如キノ数十區ヲナシ、ソノ中ニ自カラ君長アリテコレニ號令シ、王化ニ順ハヌヿナリキ。『日本紀』景行天皇二十五年「使武内宿祢巡察東方國土風俗」(八)、二十七年「武内帰奏曰、東方有日高見國、其俗文身椎髻、土地沃壌而曠。是曰蝦夷、可撃取焉」(九)トアリ、コヽニ於テ蝦夷ノ消息、始テ中幾ニ通シタリ。コノ日高見ハイズレノヿニヤ詳カナラ子ド、必ズ陸奥ノ北偏ナルベシ。コノ比ヨリシテ、服飾容貌王制ニ従ハズ、捷悍狡猾ニシテ、東方ニ群輩獵噬スルモノヲ、總テ蝦夷トハ名ズケシナリ。必ズシモ一君長ニ統ルニハアラズ。信濃越後ヨリ東北ミナ蝦夷ノ窟宅ニテ、毛人ノ居ル國ノ内ナレバ、上ツ毛ノ國、下ツ毛ノ國ナド名目モ立タリ。後世ソノ名バカリ残リテ、文字ヲ改メ、上野下野ニ作レルノミ。齊明天皇元年、「秋饗北越蝦夷九十九人、東奥蝦夷九十五人於朝、柵養蝦夷九人、

津輕蝦夷六人、授冠二階」トイフコアリ。ソノ外、信濃蝦夷、膽振鉏蝦夷、問菟蝦夷、齶田蝦夷、渟代蝦夷等ノ名称、『紀』中ニ多シ。ミナソノ居ルトコロノ地名ヲ以テ別ツナリ。景行ノ四十年、「詔日本武尊東征。天皇親執斧鉞授之」「日本武従上總轉至陸奥國。乃取海路廻於葦浦。横渡玉浦至蝦夷地。其酋魁島津神國津神屯於竹水門、将拒戰。日本武張巨鏡于船、而進。其光映日蕩波光耀奪目。蝦夷望視膽落乃悉弛弓捨矢、面縛請罪。日本武便撫納之。移攻信濃越國等蝦夷、俘其巨帥帰」トアリ。後世地名変易シ、ソノ處サダカナラ子ドモ、陸奥國トイヘルハ今ノ奥州南偏・白川・安達・岩城諸郡ノアタリナルベシ。上古ハ會津那須ナド各一國ナレバ、今ノ如ク数十郡ノ統名ニテハアルマジ。尊奥州南偏ヨリ、東海ニ船ヲ泛ヘ北ニスヽミ、蝦夷ノ地ニ至リ玉フコト見ヘタリ。東陬スベテ蝦夷ナルニツキテ、蝦夷ノ地ニイタルトアルハ、是蝦夷ノ本根最モ強梁ナルモノニテ、イハユル日高見ヲサスナルベシ。今イフ所ノ蝦夷ノ地ニ渡リ玉フニテハナシ。竹水門ノ名マサシク我土ノ地名ニ同シク、島津神・國津神ノ名モ我土當時ノ人ノ名称ニ同シ。決〆城外ノ地ニアラズ。『通典』ニ「蝦夷國海島中小國也。其使鬚長四尺、尤善弓矢。唐顯慶四年、隨倭國使入朝」トアリ。華夏ヨリ我日本ヲ称シテ、常ニ海島ト云フ。「海島中小國」トハ即チ日本ノ内ニアル一國トイフコナリ。顯慶四年ハ我齊明天皇五年ニアタル。國史ニモ此事ヲ載セラレテ、「是歲遣使聘于唐。以陸奥蝦夷男女二人往」トアリテ、註ニ「唐主問、蝦夷在何方。使人對曰、在東北。蝦夷幾種。對曰二種。遠者為都如留、次生蝦夷、近者熟蝦夷。今所将者為熟蝦夷」ト云ヘリ。然レバ蝦夷ノ遠キモノハ都加留ニ限リテ、カノ日高見トイヒシモ此邊ナルベク、熟蝦夷ト云ハ奥州南偏ハモトヨリニテ、信濃越後上野下野ノアタリナルベク、生蝦夷ハ奥州ノ中央、羽越ノ交ニ當ルベシ。蝦夷ト云ヘハ、ソノ種別ナルヨウナレドモ、今ヲ以テ見レバ、ミナ内地ノ頑民ニテ、風習然ルコヲナセルナレバ、列聖ノ征伐尤事ノ宜シキヲ得玉ヘリ。歴代毎度ノ東征ノ内ニ、「討蝦夷、遂攻粛慎」ト云フコモ見ユレドモ、コレ又外疆ヲ拓斥センガタメニハ非ズ。内地ニカヽル患ヒアリテ、ソノ声息鼓動、粛慎ト相連リ、蝦夷コレヲ以テ外援トスルナレバ、止ムコヲ得サセ玉ハヌ勢アリ。餘勇ヲ示スモ亦可ナリ。保則春風大勲ヲ立シヨリ後、蝦夷ノ患大ニヤミ、ソノ後、陸奥俘囚ニ安部頼時アリ、出羽俘囚ニ清原武衡アリ。俘囚夷俘ナド云ヘルハ、コノ時分、蝦夷ノ遺種ヲ呼フ名目ナリ。コノ二酋、九年三年ノ大乱ヲナス。大小源公ノ武力ヲモテツイニ滅亡シ、イハユル蝦夷ハ噍類ナシ。コレヨリシテ、我日本始テ東北隅モ海ヲ以テ界トスルコヲ得テ、郡縣整然トシテ守尉来往シ、王化声教遠ク被リ、永ク區別分處ノ天ノ本意ニ協ヘリ。サアレバ、コノ後ハ唯我國ヲ我國トシ、一切ニ外ヲ顧ミズ、猶モ声教ヲ慕ヒツヽ重譯疑塞ノ裔夷アラバ、羈縻不絶ノ法ニヨリ、礼讓ヲ以テ相接セズ、ソノ貪婪ノ心ヲ開カズ、厳然コレニ蒞ミ、決〆窺ハレヌヨウニアルベシ。猶モ入寇ノモノアラバ、ウチミコラシミ、日本刀ノ切レ味ヲシラシムベシ。

(六)平安期、蝦夷による元慶の乱を鎮撫。

(七)藤原保則と同じく元慶の乱を鎮撫。

(八)『日本書紀』巻七、景行天皇二五年秋七月。

(九)『日本書紀』巻七、景行天皇二七年春二月。

(十)『日本書紀』巻二六、斉明天皇元年秋七月。

(十一)『日本書紀』巻七、景行天皇四〇年秋七月。

(十二)『日本書紀』巻七、景行天皇四〇年冬十月。
(十三)『通典』巻一八五、辺防一、東夷上。
(十四)『日本書紀』斉明天皇五年秋七月。
(十五)右注。
(十六)安倍頼時。奥州藤原氏の祖。前九年の役の関係者。
(十七)前九年の役の関係者。
(十八)前九年の役・後三年の役を平定した源頼義・源義家父子。

○今云フトコロノ蝦夷ノ地ハ、即チ古ノ粛慎ナリ。粛慎國、漢ニハコレヲ挹婁トイヒ、拓跋魏ニハ勿吉トイヒ、隋唐ニハ靺鞨トイヒ、五代ノ時始テ女真トイヒ、後ニ契丹主ノ諱ヲ避ケテ女直トイフ。金ノヨリテ興ルトコロナリ。我國ヨリハ、粛慎ト称シ、又靺鞨トモ称セルナリ。和名ヲアシハセト呼フ。蝦夷トハ元ヨリ別物ナリ。古ノ蝦夷ハ亡ビテ、ソノ地ミナ我邦城ニ入リ、ソノ民ミナ我民トナル。後世タヾ蝦夷ノ名ヲイヒ習ヒ、東方城外ノ夷トノミ思フヨリ、妄リニ海外ナル粛慎ヲサシテ蝦夷トイヒ、古時生蝦夷・熟蝦夷ノ名アルヲモテ、我土ニ近キ粛慎ノ地ヲ熟蝦夷ニアテ、遠クシテ消息通ゼヌ分ヲ生蝦夷ニアツ。旧傳ノ誤称、タレ怪シムモノモナクナリキ。今中畿ヨリ海商ノ松前邊ニユクヲ、アキアシト云フ。アシハセノ轉音ナリ。古言ノ遺レルト云ベシ。又多賀城碑ニ靺鞨ノ里数ヲ記シ、又蝦夷ノ里数ヲ記ス。コレ又粛慎ハ自カラ粛慎、蝦夷ハ自カラ蝦夷ニシテ、同ジカラザルヲ見ルベシ。後人或ハ碑ノ蝦夷ヲモテ粛慎ニアテ、別ニ靺鞨ヲ求メ考フルハ、謬ノ甚シキモノナリ。『後漢』東夷傳ニ「挹婁國、古粛慎之國也。在夫餘東北千餘里、東濱大海、南與北沃沮接、不知其北所極」「善射、發入人目。弓長四尺、力如弩。矢用楛、長一尺八寸、青石為鏃、鏃皆施毒、中人即死」トアリ。粛慎ハ大國ニシテ、ソノ南邊大山アリテ横ニ連リ、ソノ南アレ地曠クシテ、又一部落ヲナシ、直チニ海ニ濵ス。漢人ソノハテマデ究メ知ルヿ能ハヌヨリ、タヾ「東濵大海」トバカリ記シタリ。ソノ最南ノ一部落、即チ上古我國ヨリ討伐ヲ加ヘシ處ナリ。即チ今ノ松前邊ノ熟夷ナリ。コレ粛慎ノ邊鄙ニテ、ソノ中都トハ消息モ通ゼヌ程ナレドモ、本来同國ナレバ、石鏃・楛矢・善射・施毒ナドノ風俗、毫モ違ハヌナリ。或人ノ説ニ、「松前」ハ我國ヨリ命シタル文字ナリ。志摩守慶廣ノ先、コノ地ヲキリ取ラレシ比、靺鞨ノ轉音「マツアイ」ニテ、種人ノ「マツアイ」ト呼フヲ聞キ、盲聾ノ俗吏カリニ「松前」ノ字ヲ充タルヨリ起ルトナリ。此等ノ證ニヨリ観レバ、松前ノ地ハ、外國ヲ犯シタル拓斥疆壤ト云フモノニ相違ナク、吾邦城ニ非ザレバ、區別分處ノ天意ニハ叶ハズト云フベシ。豊關白張大ヲ好マレシ心トイヒ、ソノ時ノ勢トイヒ、慶廣ニ舊領安堵ノ敎アリシハ、実ニ怪ムニ足ヌヿナルベシ。御代創業ノ御始モ、天下ノ大勢ニ於テ、コレニ沿ハザルヲ得サセラレヌ御事ナルベシ。然レドモ、烈祖神明ノ照ストコロ、太平ノ後ニハカレヲ内地ヘ引遷シ玉ハン御神慮ナランモ、料リガタシ。万一外夷猖獗シ、突如来如ノ變アリトモ、内地ニテ寄セ来ラン夷ヲ防クハイト易キ事ナルベク、カクノ如ク外城ニ斗入セル一縣アリテハ甚事ムツカシカルベシ。夷狄松前ニ寇シタル時、旁観シテ居ルベキニアラ子バ、急ギ数百ノ戦艦ヲ浮ヘ救ハデハ叶フマジ。我國ノ武威ナレバ救ヒ得テ振旅アルヿ必定ナルベケレドモ、勝負ハ兵家ノ習ニテ、万一援兵不利ナル時、今サラ松前ヲサシオキテ内地ニ防ギヲナスハ、口惜キ次第ナルベシ。是非救ヒ得デハ、我武威ノ瑕タラン。如此ナル時ハ、元ハ我ヨリ犯シタル地ニヨリテ、大乱

ノ端ヲナシ、兵結ビテ解ザルノ勢トナル。嘆ズベキコトナリ。又不毛ノ地トイヒ、海外運漕ノ不便トイヒ、援兵モ利アラズ、松前モ守ラズシテ一先ツ引退カン時、夷狄機ニ乗リ、長驅シテ内地ニ入ラバ、益東國ノ奇禍ナルベシ。我國ノ神威ニテ久シク足ヲ留メサセズトモ、一旦ノ大騒擾、諸侯ノ憂ヲナスコイカバカリナランヤ。カク論ジ見レバ、松前ノ我圖籍ニ入リタルハ、万世ノ憂ヲ貽ストモ云フベキカ。常藩義公ノ『蝦夷傳』ノ賛ニ「生-蝦-夷熟-蝦-夷、皆限-以-江-海-」（コノ生蝦夷・熟蝦夷ハ、今ノ世ニイフ生熟蝦夷ヲサセルナリ）政-教不-及-其-人-正-朔不-如-其-國-。使-之-生-長其種類-、蕃-息其畜-牧-、以遂-其天-性-。而在-内者驅-逐之-、在-外者隔-絶之-（在内トハ古ノ内地ニアリシ蝦夷ヲ云フ。古ノ蝦夷ハ実ハ内地ノ民ニテ、外夷ノ入込シニハ非ズ。コノ文少シ失考アレドモ、ソレヲ棄置キテタゞソノ大意ヲ見ルベシ）此處-夷之-道也」トアリ。我ハ我、夷ハ夷トケヂメヲ立テ、驅-逐隔-絶ノ二ツヲ厳ニスルハ、実ニ不易ノ善制ナリ。義公ノ識見仰キ貴フベキ御事ゾカシ。我國格別ノ天寵ニテ、區別分處シ、外夷ノ患ヒ絶テ無ケレドモ、海ノ幅至テ狭ク夷壤ニ相近ク、少シハ心懸リナルハ、東北ノ一隅ナリ。然レドモ内地ニ守備ヲキビシクシ、海岸ニ臨ミテ防禦センニハ、幾億万ノ夷寇アリトモ、露ヲソルゝニハ足ラザルベシ。松前ノ一縣ダニ無クハ。

（十九）『後漢書』東夷列傳第七十五。

（二十）常陸国水戸藩第二代藩主徳川光圀の諡号。光圀は蝦夷地などの調査を行なわせている。

○上ニ論ズル如ク、夷狄ヲ恐ルゝハ今松前ニ隷シタル熟夷ヲ恐ルゝニ非ズ。今ノ熟夷ハ寔ニ昏弱ノ輩ニテ、刀剣炮熕ノ武備モナク、只一條ノ毒箭アルノミ。又ソノ種人モ多カラズ、タトヒ乱ヲナシタリトモ、何ホドノコアラン。一蹴ニ蹴ツブスベシ。我國ハ、数百年至治ノ化ニ浴スレドモ、蠻夷諸國ノ内ニハ、カノ争闘絶ヘヌトコロモアリテ、互ニ蠶食呑噬シ、モスコビヤ（二十二）・ヲゝロシヤ（二十三）ナド、頻リニ彊大ニシテ比隣ヲ多ク并セシナド仄聞セリ。粛慎ノ地ハ、直チニヲゝロシヤニツゞキタレハ、ソノ西北ハ既ニヲゝロシヤノ威力ニナビキ従ヒヌトモ聞ヘタリ。コノ風説モシ真ナラバ、ソノ威力、生夷ヨリ漸涵シ熟夷ニモ及ブマジキニアラズ。然ラバ昏弱ノ熟夷輩モ虎ノ威ヲ假ル狐ニテ、イカナル變ヲ生ゼンモハカリガタシ。余ガ恐ルゝ所、コゝニアリ。ヲゝロシヤハ世ニ云フ赤夷（アカヒト）ノコナリ。種人アルトキ熟夷ノ地ニ来リシヲ、松前ノ吏民、ソノ服飾ノ赤キヨリカクハ名ズケシトナン。

（二十一）モスクワ。

（二十二）ロシア。

○頃日コレヲ道路ニキク。近来何人ノ建白ニヤ、熟夷ノ地開墾ノ議起リテ、中郎将一-員度支官椽屬両-三-名、ソノ外、刀筆吏数十名ヲ熟夷ニ遣ハサレ、農圃ノ器・工織ノ用・鍋釜椎鑿茶具烟具ニ至ルマデ、夥シク運輸サセラレタルトナリ。不毛ヲ墾シテ隴畝ヲナシ、営窟ヲ破リテ室廬ヲナシ、大ニ都邑ヲ營ミ、種人ニ耕織書筭、凡ソ民生ノ業ヲ教ヘ、天叙ノ五典ヲモ説キ聞セ、終ニハ内民ト伍ヲナサシメ玉ハントノ謀ニテ、ソノ法制モ忠厚ノ至リナルヨシ。禽獣ヲ化シテ人タラシメ、荒穢ヲ化シテ田トナシ玉フハ、太平ノ餘化至仁ノ波及、マコトニ有ガタキ御美事ナリ。然レドモ、義公ノ論ジサセラレシ「在-内驅-逐之-、在-外者隔-絶之-」ノ上古王政ノ遺意モアリ。劉貺カ議シタル「使-其為-寇不-能、為-臣-

妄不能ノ周代ノ道モアリテ、タヾヨク内地ノ民ヲ治メ、廃地アラバコレヲ闢ラキ、苛政アラバコレヲ除キ、遠國・邊境・山住・溪居ノモノナドノ、イマダ天叙ノ道シラザルヲ、イカニモシテソノ法ヲタテ、叮嚀ニ告誨シ、我仁風ヲ奉揚セバ、外夷ハソノマヽニ棄置キテ、ソレガマヽニ生長蕃息セシメ、ソノ天性ヲ遂ゲシメ、我ヨリカマハデモスムナレバ、此事ゼヒ〳〵行ハセラレデハ叶ハヌト申スニモ非ルベシ。コノ議、万一國益ヲ帯テ起リタルモノナラバ、大ナル誤リモアランカ。外地ノ不毛ヲ闢ク其初ノ費用ハサラニモイハズ、元来不毛ト名ヅケ来リシ土地ナレバ、瘠薄寒凍ノ至極ニテ、十分ヒラケタル後トテモ、穀物ノ出来、サマデ良美ナルベシトモ思ハレズ。タトヒ相應ノ額アリテ良美ナリトモ、今マデ蒲羸肉食ノミニテ五穀ヲ求メザル種人、ヲシナヘテ穀食セバ、ソノ作毛大抵ハ種人ノ口腹ニ盡ヌベク、我ニ歛ムルトコロ尤薄カラザルヲ得ザルベシ。種人ノ採ルトコロ、山海ノ利多ケレバ、穀物ハソノ食ニ盡ルトモ、山海ノ利ヲ我ニ歛メサハルヿナシトイハヾ、又誤リナリ。コレマデノ如ク、種人外事ナク、唯山海ニ獵漁セバ、山海ノ利モ多カルベケレドモ、種人多ク農圃ニツカバ、山海ノ利ハ廑ニソノ旧業ヲ改メザルモノヽ手ヨリ出ルノミ。追々減少ノヿナルベシ。種人全ク農ニ帰スルモ、全ク獵漁スルモ、半ハ農、半ハ獵漁ナルモ、ソノ利ヲ算スルトコロハ同ジサマナルベシ。ソノ上、種人数十百年穀食ニ馴ルヽ中ニハ、霜雪水潦ノ大祟マジリ、毎々凶饑アルヲ免カレズ。ソノ時ハ内地ノ穀ヲ運シ救ハザルヲ得ザルベシ。数十百年棄除シテ、國ノ損失ナカルベケレトモ、大ナル益ハアルマジト思ハルヽナリ。コレハ誰ニテモ心ヅクトコロニテ、必シモ智者ヲ待テ知ルヿニ非ザレバ、ヤハカ國益ヲ帯ヒテ起リタル議ニテハアルマジキナリ。或人ノ云ヘルニハ、コノ議ノ起ル所ハ、年来松前有司ノ熟夷ノトリアツカヒ道ヲ得ズ、ソノ愚騃ヲ侮トリ、詐僞ヲモテ利ヲ貪ルヨリ、種人漸クニ心離ル。カヽル處ニ、生夷ノ方ヨリ赤狄ノ威惠スデニ潤染スルノ勢アレバ、後ニハ熟夷悉ク我ヲ叛ムキ彼ニ従フ兆見ユルユヘ、此ヲ一洸シ、大ニ我ニ服セシメン術ニ出ルトナリ。此言モシ真ナラバ、コノ舉殆ンド乃公ノ事ヲ敗ルモノ存セル欤。上ニ云フ如ク、松前ノ封、國家ノタメニ便宜ナラザル形勢アレドモ、赤狄ノタヤスク覬覦ヲ生スルヿアタハヌハ、熟夷ノ地数十百里不毛荒穢ニテ、都邑ナク食物ナク足ダマリナキユヘナリ。我ヨリシテ、コレヲ開キ、都邑繁ク穀物多クナランニハ、赤狄頤ヲ解キテ相賀シツヽ、イヨ〳〵マス〳〵威力ヲ加ヘ、珍貨ヲモテソノ利心ヲ誘キ、徐々ニ懷ケ来リ、終ニハ松前ノ城門ヲ叩キ、内地ヲモ瞻望スマジキニ非ズカシ。カヽル時ニハ、一旦我ヨリ闢ラキタル地ヲ、ソノマヽニ棄ヘキニ非レバ、アハレ大争ノ根本トナルベキナリ。家居シゲク火災多キ都邑ニ、大切ナル宮殿アレバ、ソノ四邊ニ火除ケトテ空地ヲ設ク。火勢近及スルトモ、空地ニテ焼ケ止マルナリ。日本ノ火除ケ、四面ニ波濤沸洶ノ千餘里アリ。東北ノ一偶ニハ不毛荒穢ノ數百里アリ。今コノ土地ヲ開カルヽハ、火除地ニ藁屋タテツヾクルガ如クナルベシ。万一赤狄ノ災アラン時、ソノ火勢ノ止マルトコロイヅクニヤ。

○赤狄ノ内地ヲ窺ハントイフヿ、敢テ空譚虚喝スルニハ非ス。ソノ兆見ユルトコロアレバナリ。前年、赤狄紀州白子浦ノ流民ヲ送リ来リ、熟夷ノ地ニ至リシ時、交易ノヿヲ願ヒ求ム。ソノ主意ハ、熟夷ニ於テ互市務ヲ開キ、手廣ク交易セントナリ。官ヨリ交易ハ許サセラレ、熟夷ニ於テスルヿヲ許サレズ。ヤハリ長崎ニマハリ交易セヨ、モシ他ノ浦ニ至リナ

バ、國法ヲ以テコレヲ大憤ニ殲サント命ゼラル。ソノ後、長崎ニモ命下リ、ソノ御手當モアリシナド聞及ベリ。然ルニ今ニ数年ニシテ何ノ消息モナシ。遥々ト来リ求ムルホドニ懇望アルヿヲ、コノ命下リテ来ラヌハ何ゾヤ。東北方ヨリ数百千里ノ大洋ヲ凌キ来ルモノ、松前ヨリ長崎マデ、ワズカ六百里ノ路ヲ廻ハルヿヲ厭ヒ来ラザルノ理アランヤ。我ヨリ求メザルニ、千里ノ労ヲ厭ハズ流民ヲ送リ来リ、媚ヲ献ジ、コノ願ヒヲスルナレバ、一朝一夕ノヿニハ非ズシテ、数年ノ謀議ニ出タルヿナルベシ。然ルヲ官既ニ許アリテ成ニ垂タルヿヲ、ソノマヽニ棄ルノ理アランヤ。然ラバソノ来ラヌニワケアルベシ。愚ヲ以テ考ヘミルニ、赤狄ノ情、互市ノ利ヲ欲スルハ固ヨリニテ、熟夷ノ地ニ務ヲ置シメ、来往留滞シ、漸クニ我ト親シクナリ、万々ノ一、我ニ乗ズベキ機アラバコレニ乗シ、カノ妖説ヲヒロメ、愚弄誘招シテ内地ヲモ圖ラントノヿナルベシ。熟夷ノ地、彼ニ連ナリテ我ニ近ク、コノ術ヲ行ハンニ最上ノ場所ナリ。長崎ハ甚不便利ニテ、コノ事決シテ行フベカラズ。コレユヘニ交易ノヿ、官許既ニアリナガラ来ラヌニヤトモ思ハルナリ。タトヒ近年ノ内ニ長崎ヘムケ来ルヿアリトモ、尚ソノ情ハ測ルベカラザルモノアルナリ。コノ後又数年ノ謀議ニ、一旦西偏ニテノ互市允許アリナガラ、ソノマヽニ打棄往カデハ、日本我情ヲハカリ知ルマジキニアラズ、後日ノ舉ニ障ルヿモヤアラン。先ソノ意ニ従カヒ、一タビ西偏ニ至リテ、因ミヲ結ヒ置クモヨシナドノ姦計アランモ知ルベカラズ。『唐書』ニ「廣-徳建中間、南蠻使道蜀入貢、擇子弟習筭算於成都、業成而去、習知山川要害。文宗時、大入成都、自越雋以北八百里、民畜為空、又敗卒貧民因緣掠殺、官不能禁。自是群蛮嘗有屠蜀之心、蜀民苦於重征者、亦欲啓之以幸非常。歳發戍卒、不習山川之險、緩歩一舍、已呵然流汗。為将者刻薄自入、給帛則以疏易良、賦粟以沙参粒。故邊卒怨望而巴蜀危憂」トイフ文アリ。廣徳建中ハ代宗・徳宗ノ年号ナリ。ソノ比、南蛮ノモノドモ使ヲヤリテ、蜀ノ地ヨリ唐土ニ入リ貢物ヲ献ズ。ソノ往反ノ間、蜀ニ止マリ居ル。蠻人ノ年ワカク才能アルヲ擇ヒ、蜀ノ城下ニシテ文字カキ算ヲオクヿナド習ハシメ、カレコレ月日ヲ送ル内、ソノ書算ノ稽古モ成就シテ帰リタリ。ソノ時ニ蜀近邊ノ山川ノモヨウ軍スベキ形勢ヲヨク諳ンジ覚ヘタリ。後五十年バカリアリテ、文宗ノ時ニ至リ、多年ノ積謀一舉シテ成都ノ邊ニ乱入シ、ソノアタリ八百里ノ内ハ、人モ牛馬モ根ヲタツバカリノ大狼籍ヲフルマヒタリシニ、其近地ニカ子テ官吏ノ苛横ニ苦シミ居ル百姓ドモ、又ハソノ防禦ニ敗レ産ヲ失ヒ立寄ドコロナキヤカラ、此ニ力ヲ合セ乱ヲナス。官ヨリ手當アリシカドモ、禁制ナリガタキヿトナル。蠻夷ドモコレニ味ヲ得テ、ツイニ蜀ノ地ヲ残ラズ我モノニセントノ心出来レリ。蜀地タビ〳〵ノ征役用金ニ苦シム。豪民處士ノ輩、内應シテ非常ノ大利ヲ得ント欲スルモノモ多カリシ。京都ヨリ毎年数千万人ノ将士ヲ差シムケラルレドモ、蜀ハ遠方ノ土地ニテ、皆々カツテ往来シタルヿモナク、ソノ地山川ノサガシキニナレヌヿナレバ、シヅ〳〵トアリキテモ、二三里ユケバ汗ヲ流シ、息モツギアヘヌ苦シミアリ。ソノ将タルモノ、シムケカタ悪ク我利ヲハカリ、帛米等ワリツケ渡スニモヨキモノハ我トリテ悪キ品ヲ分ツナレバ、士卒ドモ大ニ怨嘆シ、夷寇ノ防ギモハカ〴〵シカラズ。蜀ノ地ハイヨ〳〵危クナリシトナリ。カクノ如ク、夷害ノ出来シハ甚シキヿナリ。サレドモ蛮夷ノ心、初ハ唐ニ貢セントテ来リシニ、蜀ニ逼留ノモノ、書筭ヲ知リ、山川ノ要害ヲ覚ヘ、風俗ヲ諳ンシ、ソノ繁昌ノアリサマ羨マシクナリシヨリ、ソノ地ヲ欲スル心出来レリ。四五十年

ノ間、イロ〳〵ト謀議ヲツミ、打入ルベキ機ヲ見合セ、一擧ニ入寇セシコナリ。蜀ハ久シク干戈モナク心ユルミタルニ、数十年鍛練ノ強兵ヲ引来リシコナレバ、一溜リモナキハヅナリ。蠻夷コノ事心易ク出来タルヨリ、愈心ヲ動カシテ、蜀地ヲ全ク取リテントノ趣向ハ出来タルナリ。蜀人ノ蠻夷ニ同心シテ乱ヲ助ケシハ、固ヨリ由テ来ル所モアレドモ、目前ノ難シノビガタク、先ツ彼ニ肩ヲ息フナリ。ソノ勢然ルベシ。防禦ノ将士ミナ遠境不案内ノモノナレバ、罷ミ弊レテ用ニ立ヌモ亦勢然ルベシ。カク苦ムコユヘ、ソノ将タルモノゝ不賢ナラバ、カクアシキ計ラヒアルモ亦勢然ルベシ。我日本當今ノ御時勢、廣徳建中ノ時勢トハ雲泥トヤ申スベキ、天地懸隔トヤ申スベキ、誠ニ大ナル相違ノ御事ニテ、邊方ノ地トイヘドモ怨ヲ抱ク民モナク、将士ヲ擇ハルゝニモカク薄行無耻ノ人ハナク、武威ノ隆ンナルコ、文教ノ盛ナルコ、申スモ愚カナル御事ナリ。今隆盛ノ御時節ヲ昏乱ノ唐ニ比スルニテハユメ〳〵無ケレドモ、蠻夷ノ情ハ皆同ジコナレバ、赤狄タトヒ初ヨリ姦軌ノ心ヲ抱カズトモ、熟夷ノ都邑繁昌シタラン後、万々ノ一カケ互市ドモ始ルカ故アリテ来リ留マルコアルカニテ、山川ノ要害ヲ知リ、内地ノ形勢、并ニ豊饒富贍ノ様子ヲモ聞キ諳ンズルコアラバ、数十年ノ後、大擧ノ企アルベカラズトハ云ハレマジ。當今ノ隆治、ナカ〳〵唐ノ如ク伺フベキ釁ハナケレドモ、数十百年ノ内ニハ、大水旱大饑饉等アリテ、人民ノ嗟怨無妄ニ起ルヲリモアルマジキモ非ズ。多キ人民ノ中ニハ、愚奸狂悖ノモノアリテ、ソノ時ニ臨ミ内應シテ不軌ヲ圖ルコアルマジキニモ非ズ。カゝラン時、ソノ機ヲ得テ入寇ヲ謀リ、熟夷ヨリ手始セバ、大ナル搔擾ニ及ブベシ。ソノ時ハカ子テ禄養ノ名将・勇士・健卒ノ多ケレバ、帛米ニ怨ヲ招クノ醜ハ決〆アルマジケレドモ、外地邊陲ノ形勢ハ、ヨク知ル人ノ少ケレバ、汗出罷弊スルノ艱苦ハ免レマジ。熟夷ノ事、イカニ處置アリトモ、赤狄イカニ望ヲカクルトモ、今時ノ隆盛ニ於テ憂フベキコ、露塵ホドモナケレドモ、君子ノ政ハ、禍ヲ未タ萌サゞルニ消ストイヘバ、トカク始ヨリ熟夷ノ地ニ御カマヒナク打棄置ルゝニ如ズト思ハルゝ所アリ。万々億々ノ一、数千万歳ノ後、宋明季ノ面影アラントキハ、大ニ國耻ヲ貽スベク、搤腕切歯モ甲斐アルマジ。兎ニモ角ニモ、區別分處ノ天意ニ循カハセラルゝヲ不易ノ長策ト申スベキカ。此タヒノ擧、熟夷ノミノコニテ、赤狄ニカゝルコハ少シモナケレドモ、愚蒙昏蔽ノ賤人ノ慮ニハ、赤狄ノ端ノ開クルハ、熟夷ヨリセント思ハルレバ、論ジ及バザルコヲ得ザルナリ。

（二十三）『唐書』巻二一五、突厥伝上。

○赤狄ヲ議スルニツキテ、尚論ズベキハ、先年流民ヲ送来リシ時ノ交易ノ願ヒ、彼方ヨリ何ヲワタスカモ知ラ子ドモ、此方ヨリノカヘモノニハ、唯米穀ヲ望ムヨシナリ。俗論ニハ、金銀銅鉄ハ山産ニテ限リアレバ、数千年交易アラバ採盡シ、國用乏シキヲ告ルノ憂モアルベケレドモ、米穀ハ人力ニテ、年々沢山ニ地ニ産スルモノナレバ、強テ惜ムニ足ラズ。彼ノ望ムトコロ、我ニ於テ與ミシヤスシト云フ。コレ大ニ非ナルベシ。金銀銅鉄ノコハ、愚ノカツテ聞ケル説モアリ。鉄ハ民用ニ切ナルモノナレバ、大ニ惜ムベケレドモ、コレハ元来交易ノ数ニ入リタルコヲ聞カズ。(二十四) 金銀ノ二品ハ幣ニツクリテ行フカ華美ノ飾リヲスルカノ外ニ用ハナシ。農具ニモ造リ得ズ、織具ニモ造リ得ズ、工匠ノ用ニモタゝス、烹飪ノ用ニモ當ズ。凡百武備ニハマス〳〵遠ク、寒クシテ衣ルベカラズ、饑テ食フベカラス。人間ニ用少キモノナリ。金銀幣多ケレバ、物價貴クナリ、少ケレバ物價賤クナリ、ソノ貴賤出入ニ甲ニ損アレバ乙ニ益アル。差ア

レドモ天下平均スレバ多キモ少キモ同シコトナリ。有来リシコトナレバ、金銀ヲ用ルノ便ナルニシクコトナケレドモ、金銀地ヲ拂フテ無クナリタリトモ、皮幣・楮幣、或ハ竹木ヲケヅリ幣ヲ作リテモ、ソノ法ダニ能ク立チテ、ヤブレ出来ラヌヨウニアリナバ、人生ノ用ハ辨ズベシ。何ゾ金銀ヲ必トセン。華美ノ飾ハ徒ラニ奢僭ノ根ヲ培ヘバ、無キ方幾許ノマサリニカアルベキ。銅ノ器ニツクリテ人ノ益ヲナス。大小サマ〳〵ニ多ケレドモ、皆供フルニ他ノ材ヲ以テスベシ。スベテ銅ヲ必ズトセズ。(二十五)故ニ金銀ハ却テ軽ク、銅ハ此ニツグ。鉄ハヤヽ重キナリ。(二十六)其最重ク最肝要ニテ、一日モ欠クベカラザルハ米穀ナリ。数千年ロ腹ニナレ来リタル人民、米穀ナクテハ一日モ養ハレズ。誠ニ寶重シテ外國ヘ渡スベキモノニハ非ズ。米穀ノ交易始マリナバ、當分ノ處ハ心易キヨウナレドモ、追々年数ノ内、許多ノ失米ニモナルベシ。「國無キ九年之蓄、曰不ト足。無キ六年之蓄、曰ト急。無キ三年之蓄、曰ト國非ストト其國ニ」(二十七)ノ古語汗青ニ厳然タリ。牧民ノ術ニ於テ、米穀ハアルガ上ニモ蓄ヘヲキ、凶饑貧困ヲ救フコト、至肝要ノ事ゾカシ。今時太平隆盛ナレドモ、六十六國ノ内ニハ、三年ノ蓄ヘイマダトヽノハズ、國非ルニ其國ニモノ多カラメト思ハル。然ル上ニ、年々定リテ外夷ヘ渡シ費消スルコトナリナバ、一旦大饑アラン時、数年ノ損失一時ニ弊生シ、大ニ國家ノ憂アラン。彼方ヨリ載セ来ルモノ、其品何々ニヤイマダコレヲ聞ザレドモ、想フニ錦繡・皮革・奇巧ノ玩器ニハ過ザルベシ。皆奢侈ヲ助クル物ノミニテ、國家ノ実用ニ非ズ。至リテ輕ク大ナル不益ノモノナリ。米穀ハ至テ重ク大ナル民益ノモノナリ。至重大益ノ物ヲモテ、至輕大不益ノ物ニ換ユルハ、ソノ時目前ニイカホドノ利アリトモ、國家ノ大體ニ於テ甚シキ大不利ニアラズヤ。

(二十四)「コレハ」より「聞カズ」まで、欄外に記す。

(二十五)「銅器」より「必トセズ」まで、欄外に記す。

(二十六)「鉄ハヤヤ重キナリ」、欄外に記す。

(二十七)『礼記』王制。

○闌出姦商ノコトハ國ノ大禁ニテ、三歳ノ児トイヘドモ刑罰ノ後ニ隨フコトヲ知ル。然ルニ愚昧貪冒ノ民多ク、ヤヽモスレバ犯ス事トナリ来リ。ヨホド事ムツカシキ交易ノ品ダニ、密々ニ運シメ姦ヲナス習ナルニ、米穀ヲ以テノ交易ハ甚事ヤスク、運漕ノ舶モ数多ク、自由ナルノ勢モアルベク、又買入レノ仕方モ自由ナレバ、潛ニ闌禁ヲ犯スモノ益多カルベシ。サモアラバ年々諸方マハリ〳〵ノ旱、溢ニソノ饑ヲ告ケヤスキコト、今マデヨリ多キ幾十倍ナルヲ知リガタカラン。且又愚ハ赤狄ノ他ノ物ヲ望マズ。米ヲ望ムニツキテ、愈マス〳〵憂フルトコロアリ。何故ニ米ヲ望ムナレバ、米穀ノ類、外國ニ隨分多キ處モアレドモ、我國ホド味厚ク性美ナル米ハナキ由ナリ。赤狄カ子テコレ聞キ、又熟夷ヨリ漏シヤリタルコトアリテコレヲ喫シ、ソノ芳美ヲ覺ヘ、大ニ欲望ノ心ヲ起スト見ヘタリ。追々交易シ、彼國ニコレヲ美スルモノ多クナリナバ、愈マス〳〵我國ヲ羨マシク思フベシ。イハユル「纖麗外散ニスレハ、則戎羯之心生ス、戎羯之心生スレハ、則侵盗之本也」ノ勢成リテ「供スレハヲ之則増ヲ求、絶ヲ之則招ク怨」(二十八)ノ痼疾トナランモ、ソノ根柢ミナコヽニ蟠マラン。噫嘻オソルベク戒ムベキニアラズヤ。

(二十八)『新唐書』巻二一五上、突厥伝。

○天主ノ教タル、姦詐ノ甚シキモノニテ、愚民ヲ服従セシメ、ソノ心ヲ一ツニシ、オノレガ威ヲ張リ、兵ヲ強クスルノ術ナルコト明カナリ。コノ

教ヲモテ人民ヲ蠱惑シ、人ノ國ヲ纂ヒ取リタルヿ夥シトキク。耶揚子(ヤヨウス)ノ上變(二十九)ヨリ以来、ソノ禁ヲ至厳ニサセラレシハ、誠ニ至當ノ御事ニテ、今ノ世、コノ教寥々トシテ響ヲ絶ハ、目出度御事ナリ。西洋北海ノ諸蠻ハ、今ニコノ術ヲ以テ兼併呑噬スルヿヤマズ。ソノ尤狡點精強ニシテ、巧ニ術ヲ用ユルモモスコヒヤ赤狄ナリト風聞セリ。カノ赤狄万万ノ一、東北隅ヨリシテ、漸ク親シクナルヿアラバ、竊カニコノ術ヲ挾ムマジキニ非ズ。當今ノ隆盛、法禁ノ厳ナレバ、中々唇ヲ動スヿハナルマジケレドモ、上ニ陳スルトコロノ如ク、数百千年ノ後、万々億々ノ一、天変兆釁アラントキ、ソノ説大ニ起ルベシ。當今禁令ノ浹洽ナルニダニ大八洲クサ〳〵シゲキ民ノ内ニハ、誤リテソノ教ヲ崇奉シ刀鋸ヲ煩スモノモアリトキコユレバ、ソノ時ニ至リテ彼ノ蠱惑ヲ受ルモノ雲従風靡センヿ、豫メ知ルベシ。タトヒカクノ如キニ至ラズトモ、熟夷ハ愚騃朴陋ノ極ナレバ、我民ヨリモ又ハルカニ惑シヤスカルベシ。新タニ我國ノ仁澤ヲ被フリ、イマダ全ク風ヲ成シ得ザル時、妖説コレヲ攪乱シ、誘掖霑濡スルナラバ、信従スルモノ多カルラメ。コレヲ打棄置レンニハ、従来ノ法禁タヽズ。ソノ説益張皇シテ、内地ニモ伝染シ、彼ガ術中ニ陥イルナレバ、厳シクコレヲ制セラレザルヲ得ズ。数千年来、我祖宗ノ赤子ダニ天正以来数十ケ度ノ号令ニ、賞罰勧懲大ニ力ヲツクサレテ、ヤウ〳〵ニ滅熄シ、滅シタル後モ、尚時アリテ、燃出ル死灰アル勢ナリシニ、恩徳日浅キノ熟夷トイヒ、後ロニ赤狄妖魅ノ鼓動アレバ、制シガタキノ極ナルベシ。必赤狄トノ争端ヒラケ、マス〳〵彼ガ術中ニ陥イラン。治平ノ世、人民ノ心ヲ動カサヌ術ハ、天教ヲ萌サヾラシムルニシクハナシ。天教ノ萌サヌ術ハ、赤狄ヲ近ヅケヌニシクハナシ。赤狄ヲ近ヅケヌ術ハ他ナシ、熟夷ヲ棄置クナリ。

(二十九)オランダ人航海士ヤン＝ヨーステンの和名。徳川家康に仕えた。

○松前ノ先侯ハ、砺嵩季廣(三十)トテ若狭源氏ナリ。イツノ年ニカアリケン。我國ノ喪乱ヲ避ケテ海ニ浮ヒ、粛慎ノ地ニワタリ、智力ヲ以テソノ邊陲ヲトリ、永ク住所ト定メラル。是即チ松前ナリ。ソノ嗣子志摩守慶廣ノ世トナリテ、威令大ニ行ハレ、夷民モ服従シ、君トシ事フ。天正十六年、豊関白ノ威望ヲ慕ヒ、始テ使幣ヲ通シ内附センヿヲ乞ハル。関白コレヲ許容アリテ、ソノマヽニ封建シ、コレヲ諸侯ニ列シ玉フ。然ルヨリシテ、松前ノ一縣、我國ノ版圖ニ入ルトナリ。又或人ノ説ニ、嘉吉年中、若狭守源信廣トキコヘシガ、海ニ航シ、粛慎ノ南界ニツキ、ヤウヤクニ北地ヲ定ム。ソノ子孫慶廣ナリトモ云ヘリ。イズレニツキテモ、松前氏ノ粛慎ニ移居アリシハ、王命大教ニヨリテノヿニ非ズ。私ノハカラヒナリ。松前ノ版圖ニ入リタルモ、睿慮台旨ニ出シニ非ズ。慶廣ノ内附アリシヨリ、自カラ定マレル勢ナリ。サレバ二百餘年カクノ如クニナリ来リシ事ナレドモ、一旦松前ノ地ヲ捨テ、今ノ禄秩ノマヽニテ侯民ヲ内地ヘ移サレテモ然ルベキ御事ナリ。我國人ヲ他國ヨリ呼モドシ、我侵地ヲ彼ニ返シ、區別分處ノ天意ヲ奉シ、國家永久無患ノ基ヲ立ルトイフモノナリ。松前ヨリ出ル産物、多クハ食料ニテ、藥材ハ僅カニ一二ニ過サルノミ。サシテ國家ノ欠事ニモナラズ。唯コノ地ヘ通ヒ馴レシ商賈輩ノ苦ムベケレドモ、コレ又前ビロニ令ヲ下シ、徐々ニソノ業ヲタテカヘサセナバ、俄ニ饑餓スルノ患ハナカルベク、何モサシサハリアルマジト思ハル。内地ニ於テ侯民ノ俸ヲ當ツレバ、ソレホドハ官ノ歳入縮マラント吝有司ノ議モアルベケレド、コレハ別ニ處置ノアルヿナリ。總〻我國ハ膏沃アマ

リアリナガラ、イマダ闢ケヌ土地頗ル多シ。コノタビノ舉ノ如ク、大費用ヲ厭ハズ決策アラセラレテ、國中開地ノ御政アランニハ、郊原ノ良田トナルベキモノ、處々ニ尚多カルベシ。別〻奥羽ノ間ニハ美地ノ棄物トナリタルモノ多シトキク。地理ニ委シク耕務ヲ暁リタル人ヲ擇ミ、命ゼラレバ、ソノ事カタカラヌ勢モ存スベシ。カヘス〳〵モ區別分處ノ天意ヲ守リ、我国ノ内ニシテハ、寸地モ外夷ニアタヘズ、他國ノ城ニシテハ、尺土モ我ヨリ侵サヌガ上々ノ策ナラン。

（三十）蠣崎氏四代目、蠣崎季広。蠣崎氏は後に松前氏に改姓。

○邊土遠境ノイマダ開ケヌ處アルヲ土人ニ問ヘバ、イズレニテモ真ノ棄地ニテ、墾闢スベカラザル趣ヲ論辨ス。スベテ賤民ハ有来リタルヿハ善シト思ヒ安ンジテ、新タニナスヿハ、何事ニヨラズ厭フ情アリ。「民不可與圖始。可與樂成」（三十一）ノ古語、「民安故常」（三十二）ノ古言、ヨク万世ノ人情ヲ盡シタリ。今マデ良有司アリテ、土地ヲ相シ彼ヲ闢カン、此ヲ墾セン、ト謀ラレシモ亦多シ。然ルニ多クハソノ功ヲ成シ得ヌナリ。ソノ謀、イツニテモ上ニ費用ナクシテ、地ノ開ケンヿヲ欲シ、鍬下三年ナドノ利ヲ以テ民ヲ勧ムルノミ。賤民厭新安舊ノ心ニテハ、別ニ莫大ノ利モ無ク、新ニ即クモ旧ニ沿フモ、サシテカハラヌ算ナレバ、マズ新ヲ棄ントテ、或ハ始ヨリウケガハズ、ソノ事成ルマジキ由ヲ種々ニ陳説シ、或ハ少シク手ヲ下シ、思ヒノ外難シトテ半塗ニコレヲ止メ、実ニソノ力ヲ竭シモセデ其事ノ成ルマジキ説ヲ唱フ。良有司打キヽテ、ゲニハ開カレヌ地ヨトヲモヒ止マラル。又一種ノ人アリテ、小智ノ身ニ大智ノナス所ヲ願ヒ、名ヲ求メンガタメニ開地ノ議ヲ起スアリ。又ソノ大役ニ来往出入シ、歳月ノ間ニオノレガ利ヲ營マント饕餮ノ心ヨリ開地ノ議ヲ起スアリ。此等ノ徒、世コレヲ山師ト称ス。山師ノ興スヿ、多クハ成就セズ。ソノ地ハモトノ荒蕪ニテ、身既ニ敗レ、家既ニ敗ルヽ多シ。右ノ良有司ノ試ヲ經タル土地、山師ノ手ヲ下セシ土地、國々ニ多シトキク。コレ等ミナ賤民ノ口舌ニ、一旦開墾アリシカドモ、ソノ功ヲ見ズ。実ニ不材ノ土イカントモスベカラザルモノナリト云ヒ傳ヘテ、ソノ時ノ幹事ノ人、ソノ道ヲ得ザリシヿハ知ラヌナリ。惜ムベキヿニ非ズヤ。モシ此度ノ舉ノ如ク、始ニ上ヨリ大ニ力ヲ用ヒサセラレ、大ニ貨財ヲ捐サセラレ、賤民ノ俗議ニ拘ハラズ御開地アランニハ、何ノ地カヒラケザルベキヤ。水懸リ至テアシクハ、能々地勢ノ順逆高下ヲ推シ測リ、或ハ遥カノ渓澗ヨリ渠ヲ通ジ、川ヲホルモヨシ。或ハ多クホリヌキノ井ヲ列シ、ソノ流レヲ引クモヨシ。田ニナラズハ畠ニナシ、畠ニナラズハ林ヲタテ、禾麥アハズハ桑麻（三十三）ヲウヘ、桑麻アハズハ楮麥ヲウヘ、菜種藥品ヨリ藍草紅花ニ至ルマデ、凡民生ニ実用アル限リハ此ニ試ミ彼ニ試ミシ玉ハン内ニハ、必ソノ地ニ宜シキモノ定マルナリ。地宜定マリタル上ハ、ソノ品ニ應ジ民ヲ分チ、ソノ殖養ヲ教ヘ年々ノ利ヲ収ムベシ。初ノ大費ハ年月ノ内ニ償フトコロアランヿ、熟夷開地ノ算ニハ勝ルベシ。總テ官ヨリ非常ノ大興發アル時ハ、賤有司ノ償ヒヲ急ニ求ルヨリ、事モ成熟セズ長久ノ大益モ出来ヌナリ。初ノ大費ハ姑クヲキ、人民ヲ利スルノ義ヲ以テ、君上面前ノ大利トシ、黽勉トシテ止ムヿナカルベシ。数十年ノ後、民生ノ利愈盛ンナル時ハ、上ノ歛入ヲノズカラ薄カラズ。償ヲ求メズシテ償ソノ中ニアランカシ。モシカノ上ニ陳スル松前内徙ノ議ヲ採用アラバ、カクノ如クシテ棄地ヲヽク開ケ、ソノ償モヤウ〳〵ニ立チタラン後ニコソ其處ヲモ擇ムベケレ。

（三十一）『尚史』巻六二、蔡諸臣伝。

(三十二)出典未詳。
(三十三)本字未詳。

○アル人ノ駁シテ云フ。熟夷ハ地アリ民アリテ、耕種ヲ知ラヌバカリナレバ、開ケバ開クホドノ益アレドモ、我國ハ膏沃アマリアリテ民ロ少ナキ方ナレバ、荒蕪大ニヒラケ、田畠多クナリタリトモ、民ヲ他所ヨリ徙シ来レバソノ旧地空荒シ、徙サズハ新地ニ充ツベキ人民ナク、コマリタルモノナルベシ。對ヘテ云ウ。コレ亦別ニ處置アルナリ。末民游手ヲ農ニ帰スルノ術モアリ、遠國邊鄙ノ育養乏シキニ、自然ト生養ヲ蕃クシ、民ロヲマス術モアリ。イヅレ歳月ノ後ニ期スルナリ。此等ノ法ヲ行ヒツヽ、開地ノ了モ徐々ニ議シ、農増シ地ヒラケ、益殷実ヲ告ル後、内徙ヲハカリテモ可ナルベシ。必シモ急従ニナスベキ了ニ非ズ。且ツ又コノ了成シ得ンニハ、ソレソレニ説アリテソノ言甚長シ。今ノ急務ハ、熟夷ヲ棄置クノ一事ノミ。コレヲ論ゼンタメノ篇ナレバ、旁言枝語ノ及ブトコロハ先ズ大畧ニ聞タマヘ。

(台湾・明道大学助理教授)